

## 第5次吹田市地域福祉計画の施策体系 指摘事項及び検討結果一覧

No.	指摘事項	市の考え
基本目標1 地域で支え合う体制づくり → 地域住民同士のつながりや支え合う体制の促進		
1	文言はわかりやすいが、地域とは何をさすのか、地域の実態を鑑みると荷が重い表現になっている。	施策体系は4次計画と同様、計画本編の中盤又は後半に掲載する予定。 地域が表す範囲や目指す地域福祉の形を計画の前半で具体的に示したうえで、地域の実態に合った役割等を記載できるよう検討する。
2	基本目標を4次計画の基本理念を入れる形で「地域の実情を踏まえた住民同士のつながりや支え合いの推進」等にしては。	4次計画の基本理念を含ませた「地域住民同士のつながりや支え合う体制の促進」へ修正。
3	施策の方向(1)> 具体的施策③として社会福祉法人における公益的な取組の周知をいれてはどうか。	社会福祉法人の施設や銀行等が行う地域貢献活動について、基本目標2の施策の方向(1)> 具体的施策③地域貢献活動をする事業者との連携として追加。 基本目標1では、地域住民が地域活動をするきっかけとなるような内容を中心に記載するよう検討する。
4	施策の方向(2)> 具体的施策①②の順番を逆にしては。	地域で活動する諸団体の概要を示し、当団体が実施する居場所づくりについての説明につなげる ことが想定されるため、掲載の順番については現行のとおりにしている。
5	施策の方向(2)> 具体的施策②について強く要望。具体的なフィードバックがもらえるようにしてほしい。	数字や現場の声を聞き取る等により、具体的に進捗イメージが掴めるような報告方法について検討する。
6	施策の方向(2)> 具体的施策③について、啓発面を地域の課題とするのは上から目線に見える。「教育メニューの充実」のように表現を修正すべき。	施策の方向(2)> 具体的施策③を「人権・福祉等に対する意識の向上に向けた機会の提供」へ修正。
7	施策の方向(2)> 具体的施策③について、啓発面に留まらず、市としても教育の機会を設ける等までを位置づけてはどうか。	No.6の回答と同様
8	資料では施策の方向(2)へ4次計画時の具体的施策「地域福祉を担う人材の育成・確保」が移動すると示されているように見えるが、5次計画の案に入っていない。どこかに包含されているのか。	具体的施策①と③へ包含する予定。 人材育成や確保が地域のみの課題と捉えられないよう文言としては削除。
基本目標2 地域と支援者で支え合う体制の充実 → 地域住民と支援者で支え合う体制の充実		
9	基本目標を「公民協働における地域生活課題に対する身近な受け皿づくりの推進」等にしては。基本目標3により支援者が取組んだ後、基本目標1のように地域に戻そうとした際、一般の住民が中心のため受け取れない現実がある。	支援サービスの提供や地域活動に参加されていない方にも親しみやすい文言とするため「地域住民と支援者で支え合う体制の充実」へ修正。 地域の受け皿づくりの推進へつなげるためにも、地域住民と支援者の具体的な関わり方についてイメージが掴めるよう説明内容の表現を検討する。
10	基本的に行政が担う内容。支援者には自治会等も含まれると思われるため、基本目標と具体的施策に矛盾が生じている。	施策の方向(1)> 具体的施策③に「地域貢献活動をする事業者との連携」を追加し、行政や事業者を含めた「支援者」と住民同士の活動によって生まれた地域団体を含めた「地域住民」との関わり方について説明する予定。 計画の前半で地域や支援者に関する定義づけを行う等、説明内容が意図と異なる認識をされないよう文言を検討する。
11	基本目標又は具体的施策の文言を修正し、No.9の矛盾を解消する必要がある。	No.9の回答と同様
12	施策の方向(2)> 具体的施策②について、4次計画では「休暇の取得推進」と記載されているが、「介護休暇の取得推進」等より具体的なものを記載してほしい。	具体的に記載することにより取組の方向性が伝わるよう説明内容を検討する。

## 第5次吹田市地域福祉計画の施策体系 指摘事項及び検討結果一覧

No.	指摘事項	市の考え
基本目標3 さまざまな支援者で支え合う体制の強化 → さまざまな支援者で支え合う包括的支援体制の基盤強化		
13	基本目標を「分野横断的な包括的支援体制の基盤強化」等にしては。そもそも包括的支援体制は根っこの部分なので他の施策と同列に考えるのは違うのではと思っている。	基本目標を「さまざまな支援者で支え合う包括的支援体制の基盤強化」へ修正。基本目標1, 2とのつながりが伝わるよう、支援者が主体の目標であることを記載。
14	施策の方向(1)を「意思決定支援を中核とした権利擁護の推進」等にしては。	意思決定支援については具体的施策①にて記載し、本施策を「意思決定支援を重視した成年後見制度等の利用促進」へ修正。
15	施策の方向(1)＞具体的施策①を「高齢者や障がい者、子供(障がい児含む)等への理解の促進」にしては。	高齢者や障がい者、子供(障がい児含む)への理解の促進については、基本目標1＞施策の方向(2)＞具体的施策③「人権・福祉等に対する意識の向上に向けた機会の提供」にて記載内容を検討し、本施策においては、認知症や知的障がい、精神障がい等により、判断能力が不十分な方に対する理解の促進や制度の普及等について記載する予定。
16	施策の方向(2)＞具体的施策①を「重層的支援体制整備事業の周知、効果測定」等にしては。	施策の方向(2)＞具体的施策①を「重層的な支援体制整備の推進」へ修正。 重層的支援体制整備事業については、各具体的施策に関連する事業として掲載予定。
その他		
17	理想的なことだけでなく、現実的な課題や実態を具体的に示すことも必要では。	具体的施策の説明を記載する際、施策によっては実態を具体的に示す等により読み手が今後の活動を行う意識に変化が生じるような内容を検討する。
18	健康で意欲があるものの犯罪を犯した人の居場所がない。再犯防止の分野については現在も特定の団体での支援に留まっているため、市として具体的な取組を計画に記載する等、何か進めていける内容であればありがたい。	No.17の回答と同様
19	4次計画と比較して非常にわかりやすくなった印象。昔は曲がりなりにも地域での助け合いがあったと思う。なぜ今地域共生社会が求められるようになったか、なぜ昔の地域での助け合いがなくなってきたのかを追及する形で政策を進めてほしい。	No.17の回答と同様
20	地域を受け皿とする場合、時代による受け皿の変化を記載するのはどうか。現状を記載して危機感を共有するような内容でもいいのではないか。	No.17の回答と同様